

第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和5年8月26日 (土) ~		令和5年8月27日 (日)		
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)				
●講師	宮武 庸介 様 黒岡 和哲 様 大阪府審判委員会IR				
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)				
	10:00 開講式 10:30 実技開始 15:40 更衣後PGC 16:55 コートイン、コートインスペクション 17:10 トスアップ 18:50 実技終了				
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 13:00 ~				
	対戦カード	Fantasista.LTD		VS	大阪学院大学
	主審(CC)	河崎 亮介氏	副審(U1)	田中 孝史氏	(U2) 増田 知真
	講師/主任	宮武 庸介 氏			
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ管理などのゲームコントロールの徹底 ・選手交代時のマニュアルの徹底 ・クロックなど、なぜ訂正したのか外からみててかわりにくい ・選手が怪我をした時のベンチにいる選手の管理 ・なにかあったときに対応できる力と決断力が必要 ・POCの確認 ・OFBのヘルプに行く時の間 			
自己の感想	<p>今回のゲームでは、カテゴリーの違うチーム同士が対戦するカードで、学生には勝ちたい社会人チームと、年上のチームになんとしてでも立ち向かいたい学生チームとでは、いつものカテゴリーが同じチーム同士の対決とは違った雰囲気からゲームが始まることを予想して挑みました。その上でゲームコントロールを意識して、いいゲームを作り上げることを意識していましたが、選手が怪我をしたときにベンチの選手がコート内に入り、介助に該当し交代のところを見逃していました。これはベンチコントロールの意識もしていた自分の中で、目の前に怪我をして座っている選手に意識をとられ周りの様子をみれていなかったのは、改善していかなければならないケースでした。また、ファールを取り上げた時のレポートのPOCが違うケースが2回あり、どこにコンタクトをしてどう影響が出たのかを現場でもっと精度良く判断しなければならぬと感じました。留学生が、味方のシュートが入った後に相手の選手を押し出すケースでは、自分は視野に入れて確認したにもかかわらず、決断力に欠け、UFコールできなかったのも、シュート後とかは関係なく決断力をもってコールするべきでした。</p>				

●スケジュール	令和5年8月27日 (日)					
	09:30 開講式 10:00 実技開始 10:00 更衣後PGC 11:25 コートイン、コートインスペクション 11:40 トスアップ 17:00 実技終了・閉講式 17:30 懇親会					
●担当試合	令和5年8月27日 (日) ~					
	対戦カード	Black Jack		VS	タツタ電線(株)	
	主審(CC)	河崎 亮介氏	副審(U1)	山口 翔氏	(U2)	増田 知真
	講師/主任	宮武 庸介 氏				
	講評	・試合前にどんな自己課題を設定して試合に挑んだのか ・課題設定の仕方をもっと具体的になにをするのか決めるべき ・3or2の視野の分担・ダブルホイッスルになったときのレポートはプライマリーテイクが優先				
	自己の感想	前日のゲームで、ベンチコントロール、またボールがライブでないときにどこに視野を当てるかを課題と設定して試合に挑みました。この試合では、特に大きなケースはなかったですが、ファールをコールされた選手がスリースローの1投目のボールを渡す前に大きな声でFコールした審判に説明を求めるケースで、ボールを持っている自分の振る舞いに迷いが少しありました。説明をしている最中にボールを渡すべきなのか、説明が終わってからボールをシューターに渡すべきなのか現場ではすこし迷いました。また、前日の講評でPOCのご指摘をいただいていたので、いつも以上にどこにどうコンタクトしたのかを意識して判定することを心がけました。3or2で割れたケースがあり、結果的にシュートは入らなかったのですが修正には至りませんでした。クルー同士の役割分担をもっと共有しておくべきだったと感じました。最後ではありますが、本講習会開催にあたり、ご指導を賜りました宮武様・黒岡様・大阪府審判委員会インストラクターのみなさまへ心より御礼申し上げます。また大会準備やTOを行っていただきましたみなさま、並びにチーム関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。				

第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回 大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和5年8月26日	(土) ~	令和5年8月27日 (日)
●会場	箕面スカイアリーナ		
●講師	宮武 庸介様 ,黒岡 和哲様 ,細見 竜太様 浅野 祐樹様		
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)		
	10:00 開講式 17:10 実技開始		
	令和5年8月27日 (日) ~		
	9:30 開講式 11:40 実技開始		
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 17:10 ~		
	対戦カード	Three hoses	VS 大阪体育大学
	主審	CC 池嶋 一幸 氏	U1 山口 翔 U2 永井 琉太 氏
	講師/主任	黒岡 和哲 様	
	講評	メカニクス・PCとB級ライセンスとして大きな問題もなくゲームが終了した事は、クルーとして判定を積み重ねた結果と感じました。その中でライセンスをステップアップする為に、以下の内容を再確認して下さい。正しいメカニクスから、クルーとして正しいPCの積み重ね。ゲーム中に突然起こる事への準備と対応。1Q133 大体大33へのプレイとは関係の無いコンタクトへの対応、2Q544 OOBの判定に対する大体大ベンチのRFGの観点からの対応。4Q455 大体大ショット時、ジャンプしたシューターの腰あたりを意図して起こすコンタクト、4Q055 白AOS時に後方から両手で起こすコンタクト等については映像を確認して下さい。	
自己の感想	ゲーム全体として大きく課題に残ったのは、ゲームコントロールの部分でした。ベンチ管理の部分が甘い印象でした。コールに関しては、自分がシンプルにファウルだと思ったものをコールしていくことができていると思います。ただ、Need callのものも映像で見ると確認できたので、それについて、反省して、次に繋げていきたいと思いません。		

●担当試合	令和5年8月27日 (日) 11:40 ~			
	対戦カード	BLACK JACK	VS	タツタ電機
	主審	CC 河崎 亮介 氏	U1	山口 翔 U2 増田 和真 氏
	講師／主任	宮武 庸介 様		
	講評	エッジ下、3or2でリードからの見方を整理してみてください。ヘルプDefはリードがプライマリであることを共通理解しましょう。声を使ってゲームをリードする意識は、どんなゲームでも持ち続けましょう。ゲームに課題を持って臨むようにする。		
自己の感想	エッジ下で割れてしまったケースがあった。自分がヘルプの立場であったので、しっかり確認して、あげることがマストだった。ファールコールに関しては、マージナルもしっかり判定して、全体として面白いゲームになったと思う。ゲームコントロールで入れたファールコールが効果的で、両チームに平等に吹いている印象だった。最後になりましたが、今回の講習会を企画してくださいました皆様に感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。			

2023 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和5年8月26日 (土) ~ 令和5年8月27日 (日)				
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)				
●講師	宮武 庸介 様、黒岡 和哲 様 細見 竜太 様、浅野 祐樹 様、太田 令菜 様				
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)				
	10:00 集合・開講式 10:30 実技開始 18:50 実技終了				
	令和5年8月27日 (日)				
	9:30 集合 10:00 実技開始 17:00 閉講式 17:15 解散				
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 12:10 ~				
	対戦カード	大阪体育大学		VS	履正社国際医療スポーツ専門学校
	REFEREE	CC	浅野 祐樹	U1	平出 圭佑
				U2	上田 昴虎
	IR				
講評	イリーガルSCRとしてのコールがあったが、コールする必要がないものがコールされて、必要なものがコールされていなかった。「あれは鳴って、これは鳴らない」という判定の整合性に問題があった。力の差があるゲームで、同じ現象でも片方のチームはRSBQが崩れないけれど、一方のチームはRSBQが崩れるケースも起こりうる。それゆえの難しさはあった。EOGの明らかなイリーガルコンタクトについてもどうして確認できなかったのかを振り返ってみてほしい。				
自己の感想	自分が見たものを少し考えすぎて素直にコールできなかったケースがあり、そこからモヤモヤした状態での判定になってしまった。レフリーがモヤモヤすると一番困るのは選手。シンプルなプレイコーリングの実践が大切だと改めて感じた。映像を見返して、ポジショニングも良くないケースが多かった。そこも判定から気持ちが離れてしまった要因だったように思った。				
●担当試合	令和5年8月27日 (日) 15:00 ~				
	対戦カード	Fantasista.LTD		VS	BLACK JACK
	REFEREE	CC	浅野 祐樹	U1	平出 圭佑
				U2	田中 孝史
	IR	宮武 庸介 様			
講評	AOSで判定が割れたケースについて。アイコンタクト、コミュニケーションをとって、原則Primaryの判定を優先する考え方。また、スローインであれば吹いた瞬間にスローインとデリバリーすることも大切。ショットが入るのを待ってからスローインをデリバリーすると「エー」という感情が湧きやすくなる。外国人プレイヤーの後方からのリバウンドコンタクトについてもボールプレイかどうかも含めて判定を磨いてほしい。他の仲間聞いてみて10人中8人が同じようにコールすると答えてくれたならそのままでも良いが、2人とかだったらやはり磨いていく必要がある。最後まで気の抜けないゲームだったが、やはり究極はゲームコントロール。勇気と決断が多くあって良かった。				
自己の感想	このゲームの自分の課題として、見える位置にしっかりポジション、アングルを取りに行き、見たもの見たままコールすることに1試合を通してトライできた。その中でインパクトがあるものが全てイリーガルではないこと。そこを見極めるためにはやはり正しく見える位置を求め続けることが必要だと感じた。オンザコートでもオフザコートでも自分にとってとても有意義な話を聞くことができた講習会でした。講師の皆様、本当にありがとうございました。				

2023年度第3回ステップアップ自己研修会
参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度第70回大阪総合バスケットボール大会					
●日程	令和5年8月26日 (土)					
●会場	箕面市第一総合体育館					
●講師	宮武 庸介 様、黒岡 和哲 様、大阪府審判委員会インストラクター					
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)					
	10:00 開講式 16:00 PGC 16:55 コートイン、コートインスペクション 17:10 ゲーム開始					
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 17:10～					
	対戦カード	Three Horses		VS	大阪体育大学	
	主審	CC	池嶋 一幸 氏	U1	山口 翔 氏	U2 永井 琉太
	講師／主任	黒岡 和哲 様				
	講評	・2QのEOQでのクロック管理(カウント・ノーカウントが大きく示す) ・ベンチ管理(アウトオブバウンズ判定・シュートが入った後) ・3Qのファーストコールで1番エリアからセンターサイドへ向かうドライブへのコールが良かった				
	自己の感想	今回のゲームでの大きな課題は次の二つである。 まず一つ目は、ゲームのクロック管理である。2QのEOQでシュートがゴールを通過したケースがあったが、カウントであるかノーカウントであるか、オポジットである自分がタイムを確認し、判定する必要があった。またファール後、トレイルでフロントコート18秒からスタートする状況でボールがライブになった瞬間にショットクロックがリセットされたが、すぐに修正するべきであったと考える。 次に二つ目は、ファールの判定である。接触・責任・影響をオフェンスかディフェンスのどちらが持っているのか、一部を見るのではなく、全体を見て、コールに繋げたいと考える。その上で、リーガルかイリーガルかマニュアルと照らし合わせて判定していく。 今回のゲームでの反省と課題を今後の活動に繋げていきたいと思う。 最後ではありますが、本講習会開催にあたってご指導を賜りました大阪府審判委員会IRの皆様へ心より御礼申し上げます。また本大会に参加させて下さいました、大阪府審判委員会の皆様へ心より御礼申し上げます。大会準備やTOを行なって下さいましたにチーム関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。				

2023年度 第3回 ステップアップ自己研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和5年8月26日 (土) ~		令和5年8月27日 (日)		
●会場	総合体育館(スカイアリーナ)				
●講師	宮武 庸介様、黒岡 和哲様、 大阪府審判委員会インストラクター部				
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)				
	10:00 集合・開講式				
	15:40 PGC				
	16:55 コートイン、コートインスペクション				
	17:10 トスアップ				
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 17:10 ~				
	対戦カード	Fantasista.LTD VS		大阪学院大学	
	主審(CC)	河崎 亮介氏	副審(U1)	田中 孝史	(U2) 増田 和真氏
	講師/主任	宮武 庸介様			
	講評	全体的にはFantasistaの方がイリーガルなコンタクトが多かった。反対にFantasistaの外国籍の選手に対して大阪学院のイリーガルなコンタクトも多く見られた。外国籍の選手がフラストレーションが溜まり、オフボールでのUFになるケースがあったがノーコールだったのでデッドボールオフィシエーティングを気をつける。ゴールテンディングを判定した際に、外国籍の選手が同チームの選手と接触し転倒した、転倒した選手を起こそうとベンチからコートに入り介助を行ったので、転倒した選手は交代しないといけない。			
自己の感想	メカニクスの崩れは無く、クロック管理もクルーで協力出来た事は良かった。全体的にFantasistaのイリーガルなコンタクトをテンポセットする事が課題だと感じた。ゴールテンディングを判定した際に選手が転倒しベンチからの介助に気づけなかったのでプライマリー以外の所もしっかり気づく事が大事だと感じた。プレイをしっかり分析する事でマージナルが増えてゲームとしての価値が上がるので、分析する事は必要だと強く感じた。				

●スケジュール	令和5年8月27日 (日) ~					
	9:30	集合				
	13:45	PGC				
	14:45	コートイン・コートインスペクション				
	15:00	トスアップ				
	17:00	閉講式・解散				
●担当試合	令和5年8月27日 (日) 15:00 ~					
	対戦カード	Fantasista.LTD		VS	BLACK JACK	
	主審(CC)	浅野 祐樹氏	副審(U1)	平出 圭佑氏	(U2)	田中 孝史
	講師／主任	宮武 庸介様				
	講評	全体的には良かったと思う。このゲームに関してはイリーガルな判定、マージナルの判定だと思うケースが7:3、6:4、5:5のような比率のケースが多く、また色々な所で色々な事が起こるので難しいゲームだったと思う。同一コンタクトのファールでNotAOSorAOSのブレイクが起こった時はプライマリーが判定し、セカンダリーがホールドするのがベーシックなメカニクスになる。				
	自己の感想	1ゲーム通してAOSorNotAOSを見極める必要があると強く感じた。難しいケースが色々な所で起こったので、プライマリー・セカンダリーのベーシックなメカニクスを常に頭に入れながら判定しないといけないという点が反省点だと感じた。1つのプレイで同チームの2人の選手がファウルをした際にしっかりデリバリー出来る様にデリバリースキルを上げるのが今後の課題だと感じた。最後になりましたが、ステップアップ自己研修会を企画運営、また開催して頂きました大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、IRをして頂きました黒岡様、宮武様、大会を運営をされておりました、大阪府バスケットボール協会競技会委員会の皆様、有難う御座いました。				

第 3 回 ステ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度第70回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和5年8月26日 (土)		～	令和5年8月27日 (日)	
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)				
●講師	宮武庸介様、黒岡和哲様、細見竜太様、浅野祐樹様、太田令菜様				
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)				
	9:30 PGC 10:00 集合・開講式 10:15 コートイン 10:30 トスアップ 12:00 ポストカンファレンス				
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 10:30 ～				
	対戦カード	大阪経済大学		VS	履正社国際医療 スポーツ専門学校
	CC	飯尾氏	U1	北野	U2 稲山氏
	講師／主任	太田 令菜 様			
	講評	・判定に対しては、プレーの分析をしっかりして笛を入れていることが伝わってきて良かった。CCがゲームの序盤から声を使ってゲームをリードする姿勢が良かったので、クルーも序盤から積極的に声を使って欲しかった。途中から意識して声が出たことは良かった。FT後のバイオレーションのクロックの修正に処置ミスがあり、いかなる場合もクロック管理を必ずしておく。レポートティングが少し動きながらなので、きちんと止まってやるように。コンタクトに対しては、マージナル・イリーガル・リーガルの基準をクルーで保てていたのが良かった。クルー全員が、選手やベンチとも適度にコミュニケーションをとれていて良かった。			
自己の感想	・1試合を通して、プレーの分析をしてから判定しコールに繋げる意識を行えたことは良かった。ただ、いくつか振り返るとPOCに課題を感じました。FTバイオレーションの後のクロック管理も意識はしていたが、正しい訂正ができなかったことは反省である。試合序盤にLでローテーション後に笛を離して声を使ってしまい、その瞬間にFが起り、笛を入れるタイミングが遅れてTから助けてもらうことがあったので、笛を離さずに声を使っていきたい。TOが中学生だったので、クロックや表示物などの確認の意識を強く持っていたが、声もつかってゲームをリードする姿勢を見せたかった。ゲーム終盤のイリーガルスクリーンとUFの判定も分析して、自分で決断もできた判定になり良かった。このような場面でより力強いプレゼンができるようになりたい。				

第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度第70回大阪総合バスケットボール選手権大会				
●日程	令和5年8月26日 (土)		～	令和5年8月27日 (日)	
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)				
●講師	宮武庸介様、黒岡和哲様、細見竜太様、浅野祐樹様、太田令菜様				
●スケジュール	令和5年8月27日 (日)				
	9:00 集合 9:15 PGC 9:45 コートイン 10:00 トスアップ 11:30 ポストカンファレンス 17:00 閉講式 17:15 解散				
●担当試合	令和5年8月27日 (日) 10:00 ～				
	対戦カード	大阪人間科学大学		VS	大阪産業大学
	CC	田中氏	U1	正水氏	U2 北野
	講師／主任	細見 竜太 様			
	講評	・クルーでのこのゲームのコンセプトが序盤から見えてこなかった。両チームとも、インサイドが大きく、タフなプレーをさせることでゲームの価値も上がるのに、インサイドで必要のないコールがあったことや、Fを吹くことでゲームがどう進むのかまで考えて判定していきたい。Fのバランスなども考えてトライしてる姿勢は見えたが、判定を入れるプレーをもう少し見極める。クルーがどこを見ているのかを意識して、自分がどこを見るのか、どこをカバーするべきなのかを理解して判定する。終盤のプロテクトシューターの判定はTから決断すべきで、なぜ決断できなかったのか、コンタクトの事実を確認できるアングル、最後までプレーにコネクしておく必要あり。試合の時間や点差によって、どのようなプレーをメイクしてくるのかの予測して、IOTの理解も深める。			
	自己の感想	・まだまだプレーの分析に課題を感じた試合でした。コンタクトが起きた原因や、プレーの理解を正しく身につけて、より良い判定につなげていく必要がある。昨日はコートでCCMも発揮できたが、この試合では十分に発揮できずまだまだ課題であることを痛感した。ただ、クロックの管理の場面では、昨日の反省から正しい処置の訂正ができたのは良かった。レフェリーとして、そのゲームをどのようにリードしたいのか、選手にどんなプレーをコートでして欲しいのか、ゲームのコンセプトをしっかりとクルーで共有し、ゲームコントロールしていきたい。最後になりましたが、今研修会をひらいてくださった、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。			

2023年度第3回ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回 大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和5年8月26日 (土)	～	令和5年8月27日 (日)
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)		
●講師	宮武 庸介様(元国際レフリー、T級インストラクター) 黒岡 和哲様(近畿IR部長、T級インストラクター) 大阪府審判委員会 インストラクター		
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)		
	10:00 集合・開講式 10:30 実技開始 18:50 実技終了		
	令和5年8月27日 (日)		
	9:30 集合 10:00 実技開始 17:00 閉講式 17:30 懇親会		
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 15:30 ～		
対戦カード	タツタ電線	VS	近畿大学
審判	CC:石川 淳也氏 U1:正水 剛氏 U2:貝崎 塁斗		
IR	浅野 祐樹様		
講評	*rushするケースが多い rushになる原因は適切なposition adjustができてないことにある。一步又は半歩でopen angleを得られるposition adjustを意識する。 *time management 少しの違和感でもクルーやTOを確認する勇気を持つ。そうすることで後々大きなトラブルにつながるのを防ぐことができる。 *theme for the game スムーズなゲームであるからこそ審判の存在感が良い意味でも悪い意味でも消えてしまう。何かthemeを定めてレフリーの存在感を出すことも必要である。		
自己の感想	以前からのrushするという課題がまだ改善されていませんでした。1つのプレーを100%で捉えようとしているので、そうすることのriskや次の判定に遅れてしまうという欠点を理解し改善していきたいと思いました。 time managementという基本的なことの徹底がまだ足りないと思いました。 どのようなゲームであってもこのゲームのthemeを定めてtryすることで、新たな課題発見やreferee skill向上につながると感じました。		

●担当試合	令和5年8月27日 (日) 10:00 ~			
	対戦カード	大阪体育大学	VS	Free Style
	審判	CC:北村 仁氏 U1:中川 緋菜氏 U2:貝崎 墨斗		
	IR	黒岡 和哲様		
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・play calling ゲームの始まり同プレイヤーに2回連続ファウルコールしたケースは、コンタクトで吹いてしまっている。また、チームの状況もよく分析した後に遅らせてコールする。 ・mechanics トレイルのpositionが高くなっている。ロートレイルを意識する。 ・IOT C primary の意識が薄い。自身がC primaryでCCにコールしてもらったケースがあった。 		
自己の感想	<p>1Qの数分で同プレイヤーに2回連続でファウルコールしたケースで、コンタクトでコールし影響まで分析できていませんでした。さらにそのチームは6人しかいないので吹くと交代になるというところまで考えてコールする力も必要だと思いました。</p> <p>トレイルが高いとプレーへのconnectが薄く判定につながらないと実感しました。自分が思っている以上にロートレイルを意識して実践していきたいと思います。</p> <p>3POにおいてCは生命線の意識をもっと持つべきだと思いました。primaryをもとにこのプレーは自身のprimaryだと認識すればコールにつなげられるケースがありました。まずは自分のprimaryの判定ができることがステップアップするための第一歩であると思いました。</p> <p>今研修に携わって頂きました近畿IR部会インストラクターのお二方、大阪府審判委員会の皆様、大阪府バスケットボール協会の皆様に、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます、ありがとうございました。</p>			

2023 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和5年8月26日 (土) ~		令和5年8月27日 (日)			
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	宮武 庸介 様 黒岡 和哲 様					
●スケジュール	令和5年8月27日 (日)					
	9:30 集合 10:00 実技開始 17:00 閉講式 17:15 終了					
●担当試合	令和5年8月27日 (日) 13:20 ~					
対戦カード	大阪体育大学		VS		大阪人間科学大学	
主審	CC	太田令菜	U1	池嶋一幸	U2	森照代
講師/主任	黒岡 和哲 様					
講評	<ul style="list-style-type: none">・ゲームの始まりから、選手たちは特段イリーガルな守りをしていないなかで、チープな笛を吹いてしまわないように。オビアスなものだけを取り上げるように。・ゲームフローを感じて、次に逃してはいけないものはなにかなどをもっとコート上で表現できればよかった。・ポジションアジャストをもっと追及する。・チームのベンチ状況の把握をしたうえで、アクションを何かしら入れる必要があったのではないか。					
自己の感想	<ul style="list-style-type: none">・ゲームの始まりでテンポセットを意識しすぎてチープなものをコールしてしまった。もっと、選手のプレーの状態を見極めて、現場での分析をおこない、これはダメっていうものだけを今後はコールしていきたいと思います。・ダブルドリブルなど、なにがどうなってダブルドリブルなのかと説明ができないのに判定してしまっていた。もっと見極める必要があると思った。・リードとトレイルでのショットとリバウンド分担ができていなかった。自分がリードの時にとくにトレイルがショットを見ているときに、自分もショットに目をやっしまい、飛び込んでくるリバウンダーに目を向けるのが遅れている。もっとコート上で視野分担ができるように映像で振り返っていききたいと思います。					

2023 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和5年8月26日 (土) ~			令和5年8月27日 (日)		
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	宮武 庸介様、黒岡 和哲様、細見 竜太様、浅野 祐樹様、太田 令菜様					
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)					
	10:00 集合・開講式 10:30 実技開始 12:20 PGD開始 13:35 コートイン、コートインスペクション 13:50 試合開始 18:50 実技終了					
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 13:50 ~					
	対戦カード	大阪産業大学			VS	FULL
	主審	CC	花谷 慎子氏	U1	森山 裕介氏	U2 中川 緋菜
	講師/主任	黒岡 和哲 様				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーがそれぞれのプライマリーでイリーガルなものをコールでき、協力して運営できていた。その中でより一層スムーズに始められるように、声を使う等の工夫をすること。 ・力強いプレゼンテーションだった。より一層高めるためには、T、Oやベンチがわかるようにどちらの手でゲームクロックのスタートのシグナルをするのか、3Pの手はどちらを挙げるのか等、常に観客、T、O、ベンチがわかるプレゼンテーションを心掛けること。 ・ペイシエントホイッスルの意識を高めること。 				
	自己の感想	1試合通じてクルーと協力し、丁寧に判定できたゲームだったと思います。課題でもある自分のプライマリーエリアのマッチアップのペアを早く捉え長くプレーを見て積極的に判定することにトライできて判定にも繋げることができました。 反省点は、EQQに課題が残りました。大事な場面なので、時間と点数やどの選手が勝負するのか、他のクルーの位置・どこを見ているのか等分析した上で判定することが大切だと改めて実感しました。また、積極的に判定することは良かったが、事実—責任だけでその後の展開がどうなっていくかを判断せずに判定していたケースもあったので、影響までしっかり見るケースは一呼吸置いて判定することを実践したいと思います。				

●担当試合	令和5年8月27日 (日) 10:00 ~						
	対戦カード	大阪体育大学			VS		Free Style
	主審	CC	北村 仁氏	U1	中川 緋菜	U2	貝崎 壘斗氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様					
	講評	<p>・ゲームフローを意識すること。 →チーム状況や選手達が何をしたいのか理解した上で決断が必要な試合だった。1人の選手に2回、3回続けてコールをしないように、声掛けでやめさせるなどの工夫。</p> <p>・昨日とは違うレフィリングだった。自分のアクティブマインドセットをベースに行う。 ・誰もが見てもわかる明らかなものを笛にするタイミングとコンタクトがあった瞬間に笛をいれずに、その後のプレーの流れを見てRSBQに影響があったことを確認してから笛にするタイミングを身に付けること。</p>					
自己の感想	<p>昨日のゲームとは違い、前半自分のアクティブマインドセットの仕方が悪かったことが反省です。コンタクトがあってもすぐに笛にせず、その後のプレーをしっかり見届けて判定しよう意識しすぎた結果、明らかなものをすぐに判定できなかつたりしました。後半は前半と違い積極的に判定できましたが、マージナルコールが多々ありました。チーム状況や選手達の意図を理解した上で判断すれば、より良い判定につながると思いました。今後は、ペイシエントホイッスルの意識を高めることやPOCにこだわること。また、コート上で自分の強みを存分に活かすレフィリングができるように研鑽を積んで日々精進していきます。最後になりましたが、研修を企画・運営、また、開催して頂きました大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>						

2023 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会			
●日程	令和5年8月26日 (土) ~ 令和5年8月27日 (日)			
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)			
●講師	宮武 庸介 様・黒岡 和哲 様 太田 令菜 様・細見 竜太 様・浅野 祐樹 様			
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)	令和5年8月27日 (日)		
	10:00 集合・開講式 10:30 実技開始 18:50 実技終了	9:30 集合 10:00 実技開始 17:00 実技終了・閉講式 17:15 解散		
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 15:30 ~			
	対戦カード	タツタ電線 VS 近畿大学		
	主審	CC 石川 淳也氏	U1 正水 剛	U2 貝崎 塁斗氏
	講師／主任	浅野 祐樹 様		
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームがスムーズな展開にも荒れる展開にもなりそうな中、集中してゲームをまとめることができていた。 ・ゲームの雰囲気にあったレフリングであったり笛の音であったが講習会なのでトラベリングを徹底して吹くなどあっても良かったのではないか。このゲームではアピールは無かったがトラベリングに対する判定が曖昧であった。 ・ファウルが少ない中で、ファウルとして取り上げなければならないものをしっかり取り上げることができた。 		
自己の感想	<p>カテゴリーの違うチーム同士の一戦でどのようなゲーム展開になるか予想できない中、1ゲーム通じて集中を切らすことなくレフリングができたと思います。判定に関しては、講評にもあった通り必要であるケースにはしっかりと笛を入れることができたと感じています。</p> <p>TO管理に関して、私がファウルコール後レポーターまでの間にTOの判断でタイマーの修正を行ってしまったケースがありました。私はレポーターの際、表示時間が変わったのではないかという違和感がありましたが、TOやクルーに確認することなくゲームを続行しました。この時クルーに確認し正しい時間に訂正できれば良かったと思います。また今後はゲーム開始前に、TOにタイマーの訂正をする時はレフリーと協議した上で訂正することを伝えておく必要があると感じました。</p>			
●担当試合	令和5年8月27日 (日) 10:00 ~			
	対戦カード	大阪人間科学大学 VS 大阪産業大学		
	主審	CC 田中 真規氏	U1 正水 剛	U2 北野 謙悟氏
	講師／主任	細見 竜太 様		
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム通じて判定基準にバラつきがあった。ゲーム前に今日の基準・コンセプトを決めてゲームに入ることで、ぶれない判定ができる。 ・ゲーム序盤に同じプレイヤーに2つのファウルをつける重みを考え判定に繋げることが大切である。 ・ノーコールの理由を冷静に分析できていた。 ・POCが異なることが多い。 		
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム序盤に、基準となるファウルを取り上げることができた。 ・1Qに軽い接触でプレイヤーの2つ目のファウルを取り上げてしまった。ゲーム序盤であった為、ファウルを探しにいってしまったことが原因であると思います。 ・1試合通じて自分のプライマリーを判定できていたと思います。ゲーム後半は、自分以外のプライマリーでファウルが多かったが、探しに行くことなく冷静に判定できていたと思う。前半から出せるようにしたい。 ・反省にもあった通り、映像を見返すとPOCが異なるケースがある。最後になりましたが、今回の講習会を企画して下さいました皆様に感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。 			

2023 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和5年8月26日 (土)					
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	宮武 庸介 様、黒岡 和哲 様、大阪府審判委員会インストラクター					
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)					
	10:00 集合・開講式					
	10:30 実技開始					
	15:00 更衣、PGC、各自ウォーミングアップ					
	16:55 コートイン、コートインスペクション					
	17:10 試合開始					
	18:50 実技終了					
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 17:10 ~					
	対戦カード	Three Horses		VS	大阪体育大学	
	クルー	CC	池嶋 一幸	U1	山口 翔 氏	U2 永井 琉太 氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様				
	講評	<p>・1ゲーム通してコールされるべきものがコールされて、クルー全体でゲームを収めることができた。細かいファウルなど、もっとテンポセットとして取り上げても良かった。</p> <p>・リードの時のポジションは工夫が必要。ショットと同時にリバウンドを見ようとして無意識に下がっている。そうすることでOOBなど見えなくなる可能性もあるので、自分が何を見るべきかを考える。自分の見えないところはクルーが見てくれているが、自分しか見えないところを見落とす可能性がある。</p> <p>・クルーそれぞれの置かれている立場が違う中で、果たして今日の内容でよかったのか。A級審査が控えている中でもっとできたことがあったのではないかと。B級としてやるべきことはやってさまざまなゲームを任せられることはできるが、それとA級になるということは別のこと。プレゼンのこだわり、タイマー管理などは意識してやっているが、ベンチの管理など次のステップに上がることがどういうことかをもう一度意識して次のゲームに臨んでほしい。</p>				
	自己の感想	<p>・カテゴリが違う対戦であった。自分の中でテンポセットからゲームフローを考え、1ゲーム通して怪我人なくゲームを無事に終えることができたことはよかった。その中でもう少しこだわりを持って取り組むべきこともあった。今日のゲーム自分が感じたのは「デリバリースキル」であった。クルーの判定に対して修正する場面が2回あった。クルー間だけで解決するのではなく、両チーム、T・O、観客を含め会場全体に何の修正なのかを分かりやすくプレゼンする必要がある。</p> <p>・担当IRの方からもおっしゃっていただいたが「A級になる」ということがどういうことかを審査会前に今一度考える機会になった。「上手なB級」ではなく、「A級」としてゲームを担当していくためには判定やタイマー管理以外のことにもっと気を配る必要がある。今日のゲームで言えばベンチ管理である。判定に対しての表現に関して毅然とふるまいアクションを起こすべきだった。</p> <p>・自分の目標は「上級審判になって全国各地で笛を吹きバスケットボールを楽しむこと」である。まずはその第一歩であるA級に昇格するために、やるべきことが明確になった。審査会までにもう1試合担当することができるので、今日の反省を活かしてトライしていきたい。</p>				

2023 年 度 第 3 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度 第70回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和5年8月27日 (日)					
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	宮武 庸介 様、黒岡 和哲 様、大阪府審判委員会インストラクター					
●スケジュール	令和5年8月27日 (日)					
	9:30 集合					
	10:00 実技開始					
	11:40 PGC、更衣、各自ウォーミングアップ					
	13:05 コートイン、コートインスペクション					
	13:20 試合開始					
	17:00 閉校式					
	17:15 解散					
●担当試合	令和5年8月27日 (日) 13:20 ~					
	対戦カード	大阪体育大学 VS 大阪人間科学大学				
	クルー	CC	太田 令菜 氏	U1	池嶋 一幸	U2 森 照代 氏
	講師/主任	黒岡 和哲 様				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなトラブルなく、クルー3人でゲームを収めようとする姿勢は良かった。その中で判定をするにあたり、ポジションアジャストにもっとこだわりを持って良い。ドライブに対して一步コートに踏み込んでみることや、リバウンドを見ようとしてアングルの悪いポジションに自分から行っていたりする部分は修正が必要。 ・ゲームフローを意識する。今日のゲームであれば終盤に白(大阪体育大学)が納得できないような判定が4回続いた。その4回の中に青(大阪人間科学大学)に何かつけれるものはなかったのか。絶対に逃してはいけないコールがあることを知り、それに笛を入れることがレフェリーIQを高めることである。 ・ベンチの反応を知っておく。今日のゲームであれば片方のチームのアピールは本当に許されるものだったのか。的確にテクニカルファウルをコールしても良かった。 				
	自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・片方のチームだけがアピールする場面があったので、公平性を保つためにもテクニカルファウルを的確にコールするべきだった。 ・突発的に起こるヴァイオレーションについて判定が必要なケースがあった。キックボールやトラベリングなど一方のチームが不利になるようなケースが続いてしまった。当たり前のことを判定していないのはチームからの不信感につながるので準備不足だった。 ・ゲームフローを握っておくことが重要だと改めて感じた。片方のチームにばかりファウルが積んでいないか、特定のプレイヤーばかりにインテンシティが高まるようなことがないか、同じレフェリーばかりのコールが続いていないかなど、ゲームをコントロールするためにはもっと色々なことに気を配る必要があると再確認できた。 ・今回このような体験をさせていただきましたことに、大阪府審判委員会の皆様に心より感謝申し上げます。A級最終審査に向けて研鑽を重ね、今年こそは合格を勝ち取りたいと思いますので、今後ともご指導よろしく願いいたします。ありがとうございました。 				

2023 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度第70回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和5年8月26日 (土) ~			令和5年8月27日 (日)		
●会場	箕面市立第一総合運動場スカイアリーナ					
●講師	宮武 庸介 様、黒岡 和哲 様、大阪府審判委員会 インストラクターの皆様					
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)			箕面市立第一総合運動場スカイアリーナ		
	10:00 開講式 15:40 更衣後PGC、終了後W-up 16:55 コートin、コートインスペクション 17:10 実技開始					
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 17:10 ~					
対戦カード	Fantasista LTD		VS		大阪学院大学	
主審	主審	河崎	U1	田中 孝史 氏	U2	増田 知真 氏
講師/主任	宮武 庸介 様					
講評	・1QのCサイドダブルチーム、Cから見えていたが、その時の心理はどうだったか。映像を見て客観的に分析して欲しい。 ・3QのTから取り上げたリバウンドファウル。LがOOBを判定したところまでを見て、駆け寄り、判定をすり合わせたところはよかった。その後のPresentationはもっと磨いて欲しい。 ・GTを他のクレーが宣した後のDeadball Officiating。倒れたプレイヤーにベンチから介助が入っており、本来なら交代すべき事象があった。Non Active Refereeで対応して欲しい。 ・IOTとして、TからLに入るのが遅い。また、Cサイドでボールが進むケースでは直接CloseDownに入るなど、明確な意図を持って取り組んで欲しい。					
自己の感想	今回の講習会では、近畿協会のIRの方々にお越しいただき、幸運にも2日間兵庫県の宮武様にIRをしていただきました。カテゴリーが違うチーム同士の試合でしたが、クレーで情報を共有しながら怪我をさせることなく試合を終えることができたと思います。個人の感想としては、CCとしてPGCからクレーを引っ張ることができたと思います。実際にPGCで話題に挙げていたGTのケースが試合で起こり、それを他のクレーが判定できたことが試合をよりクリーンなものに進めていくことができました。On the courtでは、IOTに課題が出てきたので、それを修正して次戦に臨みたいと思います。また、試合後の映像を見て分析する際の取り組み方も宮武様からアドバイスをいただき、非常に参考になりました。					

2023 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度第70回大阪総合バスケットボール選手権大会					
●日程	令和5年8月26日 (土) ~			令和5年8月27日 (日)		
●会場	箕面市立第一総合運動場スカイアリーナ					
●講師	宮武 庸介 様、黒岡 和哲 様、大阪府審判委員会 インストラクターの皆様					
●スケジュール	令和5年8月27日 (日) 箕面市立第一総合運動場スカイアリーナ 9:30 各自集合 10:00 PGC、終了後各自更衣しW-up 11:25 コートin、コートインスペクション 11:40 実技開始					
●担当試合	令和5年8月27日 (日) 11:40 ~					
対戦カード	Black Jack		VS		タツタ電線(株)	
主審	主審	河崎	U1	山口 翔 氏	U2	増田 知真 氏
講師/主任	宮武 庸介 様					
講評	・1QのLでBPLしたケース。リングを越えているので、シンプルにローテーションの方がいい。 ・交代が全体的にルーズ。プレイヤーに必ず交代の申告にTOにさせるなど、しっかりと対応して欲しかった。 ・4Qのリバウンドファウルのケース。本当に明らかなものだったか。責任の所在、RSBQを確認して判定につなげて欲しい。 ・昨日話をしたIOTのケース。TからLに入るのがまだ遅い。しっかりと修正して次戦臨んで欲しい。					
自己の感想	今回の試合をよりよいゲームにするためには、私たちが試合をリードしていく姿勢を見せ続ける必要があると思います。PGCではその話を中心に行いました。実際のOn the courtでは、声を使って試合をリードしていくことや、試合序盤にベンチ選手に対して「立ち続けな」と声かけを行うことで、その後一定の成果は出たと思います。しかし、一試合通して続けることができなかつたこと、そして、交代など基本的な対応にルーズになっていたことが1番の課題です。さらに、IOTの部分では、昨日宮武様に指摘されたTからLのスプリントができておらず、意識的に取り組む必要があると感じました。 お忙しい中2日間にわたって本研修会でIRを担当してくださいました近畿バスケットボール協会の宮武様、黒岡様、また本研修会を開催していただいた大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。					

令和5年度第3回ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度第70回大阪総合バスケットボール選手権大会		
●日程	令和5年8月26日 (土) ~ 令和5年8月26日 (土)		
●会場	箕面市第一総合体育館		
●講師	黒岡 和哲 様 宮武 庸介 様 細見 竜太 様 浅野 祐樹 様		
●スケジュール	令和5年8月26日 (土)		
	10:00 開講式 14:30 PGC 15:15 Court in 15:30 TipOff		
●担当試合	令和5年8月26日 (土) 15:30 ~		
	対戦カード	BLACK JACK	V S 履正社国際医療スポーツ専門学校
	主審	CC 堂國 氏	U1 辻 氏 U2 國守
	講師/主任	細見 竜太 様	
	講評	このゲームではFoul Callを少なくしていくことがゲームの質を上げる上で必要でした。Callしたものがmarginalとして判定できるものが複数あった。また、プレーヤが何をしたいのかを把握しFoulの成立を見極めることが必要であった。POCについても異なるケースがありPOCを意識する必要がある。 コート上で判定したのものに対してもっと強く表現する必要がある。デリバリースキルを高めることでより説得力を持つようになる。	
	自己の感想	判定したものの中にNoCallにするべきものがあった。NoCallにする為にも早くポジションに入り、そのプレーを長く見る必要があると感じた。余裕を持ってプレーを見れていない時に反応で判定をしている場面があった。 また、POCについても誤りがあり「どこ」がcontactしたために「どう」影響が出たかをしっかりと分析して判定をするべきである。 決断力を持って判定できたものもあり、今回の経験を振り返りより研鑽に活かしたいと思います。 ご多用の中、講習会の企画・運営などしていただき大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました	